

学校名	丸子北小学校		
ホームページURL	児童・生徒数 565名		
(1) テーマ 「だいじなともだち だいじな太鼓」 テーマの分類()	(2) 活動の単位 3～4年 該当学年 4学年と特殊学級		
(3) 活動のねらい ・自分の思いを太鼓に込めて表現し、全身を使って演奏することの喜びを4年1組と相談学級(特殊学級)で共有・共感する。 ・『なかよし太鼓』を発表するため足りない太鼓を集めるにはどうしたらよいか調べ、借りたり作ったりする活動を通して、人との出会いや助け合うすばらしさを学ぶ。 ・太鼓作りを教えてくれたAさんと一緒に自分たちの太鼓を作ることを通して、Aさんの太鼓への思いに気づき、大切な自分たちの太鼓で友だち同士が尊重しあいながら『なかよし太鼓』を創り上げていこうという意欲を持つ。 ・太鼓作りを通して学んできた思いを人権フェスティバルでどのように伝えたいのかともに考え、太鼓の音と心の響きを大切にしながら『なかよし太鼓』を創る。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・交流活動の中に和太鼓の演奏を位置づけ、本校で例年行っている人権フェスティバルで発表することを最終目標に取り組んだ。太鼓の数が少ないことを問題のきっかけとし、探して借りたりする活動とともに、自分たちの太鼓を作ろうという活動を取り入れた。職員研修でも、また児童もAさんに教えていただき熱心に太鼓を作り上げた。 ・自分たちの太鼓に寄せる思いをグループごとに太鼓の曲に創作し、それを全校に発信する目的で人権フェスティバルに発表した。 時数(30)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・校内研究グループ「同和教育」のメンバーが中心となり計画を推進した。 ・部落解放同盟丸子町協議会のAさんに一貫してご指導を頂いた。			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等)			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・自分たちで太鼓作りをしたこと、またその活動を通して自分たちの太鼓に寄せる思いが醸成されてくる過程を場面化し、グループ練習を行いそれを聞き合ったり、Aさんのお話を聞くことで、皆で心を合わせて『なかよし太鼓』を創り上げようとする気持ちを高め、学級集団としての質的変容を遂げることができたか。 ・4年1組と特殊学級との交流を、人権フェスティバルに向けての太鼓作りや演奏を通して行ってきたことは、学級内と交流相手とのよりよい人間関係づくりに役立ったか。 ・太鼓作りを誇りうる被差別部落の文化の一つとして部落史学習の導入に据えたことが、今後被差別部落の方々のやさしさ、かしこさ、たくましさに寄り添いながら、共感的に部落差別をなくす主体者としての素地力をつけることとなったか。			
(8) 成果と課題 【成果】 和太鼓を作る活動から取り組めたことはよかったし、Aさんとの出会いが本当に良かった。おそらく部落差別問題と最初の出会いをこの題材でした児童が多いと思われるが、誇りうる被差別部落の仕事を抱ったことは今後に明るい展望を持たせるものであった。特殊学級と普通学級との交流を1年間、他の活動も取り入れながら太鼓を中心にして取り組めたことは、交流の質的な変容も見られ、意義があった。 今まで前面に出ることの少なかった児童が自信を持って大きな声を出し、中心的に活動している姿や、自分本位に行動してしまいがちな児童が友だちを支えている姿が見られたりと、太鼓に関わることで太鼓を中心に学級がまとまってきた。 【残された問題】 今後どのような解放子ども会との共同学習を仕組むべきか、研究の必要がある。 「だいじな太鼓」は今見えているが、「だいじなともだち」にこれからどう向けるか。 部落差別を始めとするあらゆる差別の解消のために、今後この学習をどのようにつなげていけばよいかを考えていきたい。児童に明るい展望が持てる教材開発を進めていくことは急務である。 職員自らが、自分にとっての同和教育・部落差別問題を自分自身の言葉で語れること、そのような質の高い職員研修が求められる。			

テーマの分類 横断的・総合的な課題(-ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題